
先生

ORATORIO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

先生

【コード】

N09920

【作者名】

ORATORIO

【あらすじ】

その男、伝説の殺し屋にして…

(前書き)

その男、殺し屋にして…

自分の名前を呼ぶ誰かの声が聞こえる。
もう何か月も聞いていなかった自分の名前だ。
ゆっくりと目を開ける。

そこにいたのは…

「『先生』…来てくれたんだ…」

こんなにも嬉しい事はなかった。

絶対に来てくれない。

そう思っていた。

でも…ずっと会いたかった、『先生』。

「僕、帰れるんだ。家に…学校に…」

『先生』は優しい顔で、『ああ、帰ろう』と、言ってくれた。

自分の今の顔が分かる。今自分は…笑ってるんだ。

「『先生』…また、いろいろ教えてね」

『もちろんだ。俺の知っている事を全部教えてやる』

「僕、絵をまた描きたいな。学校の皆の絵」

『お前は絵が好きで、上手かったな』

「『先生』達の絵も…描くよ。描いたら先生にあげるね」

『それは楽しみだ。額を買っとかなきゃな』

「大げさだ…よ…」

なぜか、とても眠い。大好きな『先生』と、もっと話したいのに…

「なんだ、か、眠たいや…ねえ、『先生』…？」

『なんだ？』

「起きたら、学校行けるかな？」

『ああ、起きたら学校に登校だ』

「うん」

また、皆に会える。

また、教えてもらえる。

楽しみだなあ…

「『先生』…おやすみなさい」

『おやすみ』

ドガアアアアン！

『施設』に爆音が鳴り響く。

銃を持った男達が恐怖する。

こんな事があり得るのか！？

パンツ！パンツ！

銃声の数だけ、味方が死ぬ。

自分達は東欧最大の組織！それがたった…

目の前の…

「たった！たった一人に…！」

『子供の死体』を抱えた『死神』に銃を向け、

「JESUS！^{じずす}」

「それが俺の名だ…地獄に言っても忘れるな」

『JESUS』は『彼』を左腕で抱きしめて戦場を歩く。

『彼』の体の臓器は『切り売り』され、以前抱き上げ時の半分もない。

だが…『JESUS』にとって、どんなモノより…重かった。

「うるさくてごめんな。すぐに静かなところに連れていくから」

『先生』…お歌聞いて…』

(俺は…)

『先生』、優しい人が…いる…お話作つたの…』

(俺は…！)

『ぼく…先生』みたいな先生になるんだ…』

(なんて…！ちっぽけで！無力なんだ…！)

新手がくる。『JESUS』はそいつらを冷たい瞳で一瞥し、

「なんで…俺やお前達みたいなのが生きて…が死ぬんだ？答えるよ

…」

銃を向けて、

「『神様』…！」

数ヶ月後…日本に一人の男が現われる。

その男の名は『藤沢真吾』…本当の名は『JESUS』！

その男、『殺し屋』にして…『教師』！

(後書き)

今回は短編二次小説です。自分のもっとも好きな作品のひとつ『JESUS』の二次小説です。
今の『JESUS 砂塵航路』と『死がふたりを分かつまで』は毎回楽しみにしている自分です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0992o/>

先生

2010年10月9日16時09分発行